

【選択】教員力の資質向上のための講習

■期日 平成31年8月7日(水)～8月9日(金)

■主な対象 幼稚園、小学校、中学校・高等学校保健体育教諭

■定員 115名

■会場 たまプラーザキャンパス

■応募期間(仮申込) 平成31年4月16日(火)10:00～4月19日(金)23:59

■受講料 2万円

■時間数 18時間 【選択領域】受講者が任意に選択して受講する領域

■講習内容

本講座では職種に合わせて、教育現場に沿った教員自身の人間開発を目指した講義内容を3日間提供する。講習は3つのテーマから成り立つ。(1) グローバル化する社会で成長する子どもたちへ教員に必要な知識を分かりやすく解説する (2) 運動をはじめ様々な体験不足の現代の子どもたちを元気にするための教員の資質向上を目指す (3) 現代社会に育つ子どもたちの成長を助け、支援するための知識と技術力を養う。

■時間割

	日時	時間割番号	時間割番号	時間割番号
選 択 科 目 時 間 割	7日午前	E-1-1	E-1-2	E-1-3
	7日午後	E-2-1	E-2-2	E-2-3
	8日午前	E-3-1	E-3-2	E-3-3
	8日午後	E-4-1	E-4-2	E-4-3
	9日午前	E-5-1	E-5-2	E-5-3
	9日午後	E-6-1	E-6-2	E-6-3

仮申込時に「授業コマごとの登録」が必要です。但し、各コマの希望人数により、希望以外のコマを受講いただく場合がありますので、予めご了承ください。

授業コマは、3日間午前午後各1コマを登録してください。

■担当講師

夏秋 英房	國學院大學人間開発学部教授	《E-1-1》
林 貢一郎	國學院大學人間開発学部教授	《E-1-2》
田沼 茂紀	國學院大學人間開発学部教授	《E-1-3》
島田 由紀子	國學院大學人間開発学部教授	《E-2-1》
原 英喜	國學院大學人間開発学部教授	《E-2-2》
高橋 幸子	國學院大學人間開発学部教授	《E-2-3》
石川 清明	國學院大學人間開発学部教授	《E-3-1》
伊藤 英之	國學院大學人間開発学部助教	《E-3-2》
寺本 貴啓	國學院大學人間開発学部准教授	《E-3-3》
山瀬 範子	國學院大學人間開発学部准教授	《E-4-1》
川田 祐樹	國學院大學人間開発学部准教授	《E-4-2》
高山 真琴	國學院大學人間開発学部教授	《E-4-3》
野本 茂夫	國學院大學人間開発学部教授	《E-5-1》

山田 佳弘	國學院大學人間開発学部教授	《E-5-2》	
成田 信子	國學院大學人間開発学部教授	《E-5-3》	
吉永 安里	國學院大學人間開発学部准教授	《E-6-1》	
神事 努	國學院大學人間開発学部准教授	《E-6-2》	
柴田 保之	國學院大學人間開発学部教授	《E-6-3》	担当講師及び内容変更

■シラバス

E-1-1

講義名	地域社会と共につくる学校・園の教育とは
担当講師	夏秋 英房
講義概要	<p>地域のコミュニティと園や学校の教育は、新しい学習指導要領が「社会に開かれた教育課程」を標榜していることからわかるとおり、連携して子どもを育てていく共通の課題を担っているものとされる。</p> <p>しかしながら、園や学校は具体的にどのように地域と連携することができるのか。さらに言えば、連携すべき相手となる「地域」は果たしてどのような存在なのか。教育・保育の専門家集団が運営している園や学校はいまや「働き方改革」の的になるほどに多忙を極めている。それが、不確かな「地域社会」と連携してゆくことに、どのようなメリットがあるのか、などなど、疑問は後を絶たないほど出てくるだろう。</p> <p>園や学校と地域社会とのつながりは、それぞれの学校や地域の特性によって異なっている。したがって、そこで働く先生方も、地域社会と結びついた経験の豊かな先生もいれば、ほとんど経験のない先生もおられるだろう。さまざまな特性をもった地域があり、いろいろな保護者や地域住民が住んでいて、また、さまざまな経験と考えをもった教師たちがいることを前提にしながら、地域社会と学校との関わりのあり方、とくに子どもたちの生活と育ちをともに支えていくあり方について、事例をもとに考えてみたい。</p> <p>本講習でイメージする地域は、たまプラーザキャンパス周辺のような大都市郊外が中心になるが、山間地などの事例も対比的に取り上げてみたい。おおむね次のような構成で講義と討議を織り交ぜながら進めていきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの安心と安全をたもつ学校と地域社会 2) 子どもの生活経験を豊かにする学校と地域社会 3) 子どもの学びを支え導く学校と地域社会 4) 地域社会と園・学校の関わりはこう変わってきた 5) 「地域に開かれた学校」は「地域と共に教育を創り、学ぶ学校」になり得るのか <p>※資料などは当日配布する。[参考]玉井・夏秋著『地域コミュニティと教育』(放送大学、2018年)</p>
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) 講義のテーマにかかわる基礎的な知識を習得し理解できたか 2) 講義のテーマについて、ご自分の教育現場に照らして、もしくは身近な経験に照らして、考えることができたか。自分なりの意見や見解をもつことができたか。 <p>以上の2点について、授業内試験によって評価します。</p>

E-1-2

講義名	若齢女性アスリートの医学的問題点とその予防
担当講師	林 貢一郎
講義概要	近年、女性のスポーツ参加が盛んになり、中高校生の年代であっても、競技スポーツにおける女性アスリートの活躍は目を見張るものがあります。一方で、月経異常や月経に伴う症状、摂食障害、貧血など、女性アスリートにおいて特有の医学的問題点が指摘されており、多くの女子アスリートがこの問題を抱えています。女子中高校生アスリートの多くが、実はこの問題を抱えています。これらは競技力の発揮を制限するのはもちろんのこと、なにより、発育発達段階にある若年女子の健康維持を脅かすこととなります。この問題は予防することができます。そのためには、クラブ活動を担当する顧問(教員)や指導者、養護教諭、産婦人科医など女子アスリートを支える人たちの正しい理解と対応が必要です。今回の講習では、若齢女性アスリートの医学的な問題点とその予防について解説します。
評価方法	講義内容について、確認するテストを行います。

E-1-3

講義名	道徳教育の理論と実践:「特別の教科 道徳」の意義理解と具体的実践
担当講師	田沼 茂紀
講義概要	本講習では平成 30 年 4 月より全面実施されることになった小学校「特別の教科 道徳」=道徳科の全貌について概観し、その実施に向けた諸課題への理解を深めながら、実践的な視点からどう道徳科授業づくりに取り組めばよいのかを演習的に考察していく。 ①道徳教育を巡る諸課題について(現代の子供たち、道徳教育忌避感情、道徳教育軽視傾向) ②学校における道徳科の役割(道徳の意義と目的、道徳の内容、道徳の指導方法) ③道徳科の特質を生かした授業づくりの方法(指導計画、主題構成、教材、指導方法、評価、カリキュラム・マネジメントの進め方) また、近年の学校現場で注目されているアクティブ・ラーニングによる道徳科授業づくりのポイントについても言及していく。その際、具体的に道徳科授業がイメージできるよう、ワークショップ形式で展開していく予定である。
評価方法	本講義の評価については、①受講者が学びを通してどのような道徳科への自己課題を発見することができたか、②今後の道徳科授業実践に向けてどのような知見を得ることができたのか、この 2 点を論述試験として実施する。なお、論述試験は本講義の最後に時間を設定して行う。

E-2-1

講義名	子どもの創造性を育む表現活動
担当講師	島田 由紀子
講義概要	幼稚園教育は遊びや生活といった直接的・具体的な体験を通して行われるもので、小学校以降の学びや思考に深く関わると考えられる。小学校以降の教育においても、さまざまな素材と向き合い試行錯誤することで、自分なりの表現を獲得し、友達に伝えたり、感じとったりすることで、創造的な表現に結びつけることができる。この授業では、造形的な表現や学びの視点から、子ども一人一人の「やりたい」意欲を尊重し、創造的で主体的な表現活動や学びについて考える。また、保育者、教師自身の感性を磨き合い、子どもの創造性を育む援助や総合的な指導について検討する。

	持ち物は、はさみ、筆記用具、セロテープ、糊、など。動きやすい汚れてもよい服装で参加してください。
評価方法	評価は筆記試験で行う。

E-2-2

講義名	運動技能が未開発な子どもの運動指導(水泳の息継ぎを中心に)
担当講師	原 英喜
講義概要	<p>運動が全般的に不得意な子どもや、特定の種目が不得意な子どもを指導するときに、どのように対応することが望ましいかを検証します。小学校の低学年でも水泳教室に通っていない生徒や、中学生でも泳げない生徒もいます。能力別に分けられない授業は、焦点を絞りにくいものです。そこで、</p> <p>1)水泳の息継ぎを例に示しながら、呼吸生理学的な分析からわかる科学的に根拠をもった指導法 2)動作の中で解決策を見つけるための目のつけどころを探す方法 3)動作中に、子どもの意識を指導したい内容に合わせるポイントの示しかたができていたかを振り返ってみましょう。</p> <p>生涯にわたって健康な生活を送るためには、運動実践に積極的に取り組み、運動嫌いを作らないようにして、運動習慣を身に付けることが大切です。そのための指導方法に確信を持っていただくという内容です。</p> <p>到達目標 動きを見る目を養い、運動の的確な指導法が見つけられるようになること。</p>
評価方法	分析方法と対策を確認する筆記試験

E-2-3

講義名	子どもの思いによりそう特別支援教育～最適な支援のためにできること～
担当講師	高橋 幸子
講義概要	<p>我が国においても、2014年国連の「障害者権利条約」の批准し、教育現場においては共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の実現がめざされ、特別支援教育の充実がさらに求められています。障害のあるなしに関わらず、個別の教育的ニーズを有するすべての幼児児童生徒に対し最適な支援を行うために、私たち教員が大切にしなければならないことは何か、「連続性のある多様な学びの場」の実現のために必要なことは何か、本講習を通して一緒に考えてみませんか。</p> <p>○発達障害の理解と支援—最新の知見から ○新学習指導要領から考える今後の特別支援教育 ○合理的配慮の観点から検討する「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」 ○インクルーシブな授業づくりのための視点と工夫 ○教育実践上の現状と課題についての意見交換(ケース検討含む)</p> <p>受講者の人数や属性に応じて、講義だけでなく疑似体験、グループワークなどを行う予定です。個人情報に配慮して具体的な事例についての検討や情報交換なども行いたいと思います。</p>
評価方法	講義の内容に基づく筆記試験により、その理解度を評価します。

E-3-1

講義名	乳幼児期の言語獲得過程と保育者の援助
担当講師	石川 清明
講義概要	<p>乳幼児期の発達はめざましいものがあり、歩行の開始と並び音声言語の獲得は、その後の生活に重要な意味を持つ。その一方で、言語発達の遅れや構音障害、吃音などコミュニケーションの問題の発見もほとんどがこの時期であり、発達の過程にも個人差がみられるため保護者からの相談も多く、適切な対応が求められる。特に幼稚園や認定こども園など、同年齢集団での生活は言語発達に大きな影響を及ぼす。</p> <p>そこで、言語獲得過程ならびに獲得の条件について発達全般を視野に入れて理解を深め、日々の保育において整えるべき言語獲得環境および援助のポイントについて学ぶ。</p>
評価方法	講義で触れた内容の基本的事項について筆記試験を行う。

E-3-2

講座名	運動指導の心理学
担当講師	伊藤 英之
講座概要	<p>体育実技の授業や運動部活動の指導に活かせる、スポーツ心理学の理論と具体的な実践方法を解説します。</p> <p>具体的には、以下のような内容を扱います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①運動が上達するメカニズム(運動学習理論) ②やる気を出させるメカニズム(動機づけ理論) ③競技力向上と実力発揮のメカニズム(メンタルトレーニング) <p>運動学習理論では、運動が上達するメカニズムや上達の個人差・課題差を解説するとともに、運動の上達を阻害する要因も理解してもらいます。</p> <p>動機づけ理論では、人がやる気を出すメカニズムを解説し、やる気を出させる声かけや工夫などの具体的なアプローチ方法を理解してもらいます。</p> <p>メンタルトレーニングでは、中高生の部活動で活用できるメンタルトレーニングの理論や技法を解説し、実際に体験してもらいます。</p>
評価基準	講義の内容に基づく筆記試験により、その理解度を評価します。

E-3-3

講座名	新学習指導要領を見据えた新しい理科授業の考え方
担当講師	寺本 貴啓
講座概要	<p>新学習指導要領は、「資質・能力」「見方・考え方」「主体的・対話的で深い学び」など、たくさんの新しい言葉が使われています。では、これからの理科は、これまでとどう違い、どのように変わるのか概説します。</p> <p>また、全国学力・学習状況調査においても、理科で求められる課題がいくつか明らかになっています。そこで、これからの授業で教師が何に留意して指導して行く必要があるのかについても解説し、体験も含め理解を深めていきます。</p>

	1. 「資質・能力」「見方・考え方」「主体的・対話的で深い学び」と理科 2. 新学習指導要領の理科 3. 現在の理科の課題の具体 4. 実習
評価基準	テスト(講義内容について、確認するテストを行う。)

E-4-1

講座名	学校と家庭のパートナーシップの中で子どもを育む～家庭環境の変化を踏まえて～
担当講師	山瀬 範子
講座概要	<p>本講義では、家族像の変化と現代家族の問題と課題について概説した上で、社会との連携及び協働を通して子どもたちを育むために、教師・保育者と保護者のかかわりや子育て家庭への支援の在り方について考えることを目的とする。</p> <p>「子どもが育てにくい社会になった」「家族が変わった」「家族が子どもを育てることができなくなっている」等、家庭の養育力の低下について論じられるようになって久しい。「変わった」といわれる家族の姿が、そもそも、どんな形として捉えてきたのか、「低下」したといわれる「養育力」の中身は何を指しているのか、議論の基礎となる家族の姿、養育力について、まずは、概説し、その上で、現代家族の持つ問題点や課題となることを整理する。</p> <p>これらの議論に基づいて、教師・保育者と保護者の関わりや子育て家庭への支援について考えていきたい。</p>
評価基準	講義の終わりに、講義内容にもとづく筆記試験(論述式)を行います。

E-4-2

講座名	子どもの肥満・痩せと生活習慣
担当講師	川田 裕樹
講座概要	<p>「三つ子の魂百まで」という諺があるように、子どもの頃に身についた生活習慣を改善することは容易ではなく、一度身についた食習慣や運動習慣はその後の生活習慣や体格にも大きく影響していることが考えられます。少子高齢化やそれにとまなう国民医療費の増大が大きな社会問題になっている我が国において、生活習慣病を未然に防ぐための方策は極めて重要であり、生涯にわたる健康保持のためには、特に幼少期の段階で望ましい生活習慣を身に付けさせることが大切だと言えるでしょう。</p> <p>しかしながら、子どもは大人と異なり、将来の健康を見据え行動をとることが難しいこと、また、子どもは大部分の生活習慣について保護者の影響下にあることから、子どもに望ましい生活習慣を身に付けさせるためには、子ども自身がその必要性を実感できるような教育や、保護者をも含めた教育的なアプローチが必要です。</p> <p>本講義では、子どもを取り巻く生活習慣の現状や、小児の肥満・メタボ、若年女性の痩せなどの問題について解説するとともに、学校現場で教師がこれらに対してどのように貢献できるかを考えます。</p>
評価基準	講義の内容に基づく筆記試験により、その理解度を評価します。

E-4-3

講座名	音楽を学ぶ 音楽で学ぶ
担当講師	高山 真琴
講座概要	<p>平成 29 年に告知された新学習指導要領では、育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で再整理しています。本講義では、音楽でこそ育むことができる子どもの資質・能力について、音楽的体験を踏まえながら考えていきます。</p> <p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理論脳と感動脳を育てる音楽活動 2. 常時活動 3. 学際的表現活動 4. まとめ <p>本講義を通しての音楽への理解が、先生方の教育活動に反映されることを心から願っています。</p>
評価基準	<p>評価方法：記述式の試験を行い評価します。</p> <p>注)服装について：身体表現活動も行いますので動きやすい服装でお出で下さい。</p>

E-5-1

講座名	対話を通して深める保育臨床相談
担当講師	野本 茂夫
講座概要	<p>幼稚園、認定こども園では、子どもと保護者、そして保育者を巡る問題や課題が多様化、複雑化、深刻化してきています。そして、保育者はこの問題や課題に取り組んでいくことが使命です。ところが、保育者一人の力で奮闘努力するだけではなかなか対応策が見つからない問題や課題に数多く出会います。また、問題の大きさに直面し、保育者として無力感に陥ってしまうこともしばしばです。そこで、このような保育現場の臨床的な問題や課題の解決を目指して、保育者や関係者が対話し相談し、子ども理解や保護者理解を深化させ保育で協働しながら、創造的に保育の問題や課題に取り組み改善していく保育のあり方を考えていきます。そして、講義の後半では、実際に対話の時間を設けて保育を深める体験をしてもらう計画です。</p>
評価基準	<p>以下のように評価基準を定め、100点満点で評価し、60点以上を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 試験 70点 ・ 受講と対話への参加度 30点

E-5-2

講座名	体育授業におけるICTの簡単活用
担当講師	山田 佳弘

講座概要	ICTの学校体育現場での導入事例が多く報告されていますが、導入がなされていない現場もあり、学校の環境による差や、機器操作が面倒といった先入観もあることが予想されます。そこで本講義ではICTの導入未経験の方を対象に、体育授業(部活動も含む)に活かせるICTをなるべく簡単に活用する初歩的な方法について、私が行っている事例なども紹介しながら解説し、受講者の皆さんにも実践してもらう予定です。次のような内容を扱います。① ICTの活用事例の紹介 ② ICTのメリットデメリット ③簡単な導入方法と活用実践 これまでICTを授業に導入してこなかった方に本講義を通して少しでもご理解いただけたらと考えています。また、有効な活用アイデアが講義中に色々出てきて、皆さんと情報交換を行いたいと思います。
評価基準	講義内容の確認として筆記テストを実施します。

E-5-3

講座名	子どもたちの学びを引き出す国語科授業づくり
担当講師	成田 信子
講座概要	平成 29 年 3 月公示の学習指導要領では、資質・能力の育成が今までにも増して重要視されています。国語科においては、従来の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域は、資質・能力の「思考力・判断力・表現力」に位置付けられることになりました。授業づくりでは、国語科の指導事項と資質・能力の関係をどのようにとらえて立案をすればよいのでしょうか。教師が子どもたちの学びをみてとり、大きな枠組みのなかでとらえることが求められます。 本講義では、文学的な文章を教材として、子どもの学びを中心においた立案を考えます。子どもの学びとは、子どもの現状、子どもに付けたい力、学びに向かう姿勢などを包含しています。これら子どもの学びと教材をつないで教材研究をし、授業のねらいや流れ、主発問、言語活動を導いていきましょう。講義のなかにグループワークを取り入れ、相互交流的な学びの手法によって授業づくりを行います。学級や学校の子どもたちの具体的な姿を互いに交流し、教師の教授行動の意味を問いながら、子どもたちの意欲を引き出し明日を切り開く授業を考えていきましょう。
評価基準	1講義内容についての振り返りテスト 2グループワークの参加・学びの記述

E-6-1

講座名	幼児と楽しむことば遊び～幼小のつながりを考えて～
担当講師	吉永 安里
講座概要	平成 29 年度改訂の幼稚園教育要領・保育所保育指針では小学校への接続が一層強調され、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿についての記述が盛り込まれた。しかし、幼児教育と小学校教育では、カリキュラムの構成原理や指導方法に違いがあり、未だに、子どもたちがその段差につまずくことも少なくない。幼児教育と小学校教育を円滑につないでいくためには、育ちと学びの連続性・一貫性をもたせることが重要である。この連続性・一貫性を保証するためには、どちらがどちらに合わせるというのではなく、幼小が互いの教育のよさを理解し、尊重し、それぞれの成果をつないでいく、連続的な学びを意識する必要がある。 本講座では、小学校の国語科の構成原理や理念とスタートカリキュラムについて、実際の授業

	実践記録を通して理解を深めるとともに、小学校の国語科の単なる準備としての幼児期のことばの学びではなく、幼児期の特性を生かしたことばの学びの芽生えをどのように充実させるかを検討していきたい。
評価基準	① 講義内容についての論述による試験 ② グループワークの参加度

E-6-2

講座名	運動指導におけるスポーツバイオメカニクス
担当講師	神事 努
講座概要	<p>スポーツや身体運動における「動き」や「力」に関する学問分野を「バイオメカニクス」と呼ぶ。体育・スポーツの分野においては、技術の向上や障害の予防にその知識が役立つことが期待される。本講習では、解剖学、生理学等の知識を基に、ヒトの身体活動ならびにスポーツ活動を力学的に理解する力をつける。特に、並進運動の力学に焦点を当て、以下の内容を扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動と力 2. 力の種類 3. ニュートンの運動の法則 4. 加速度と力 5. 質量 6. 速度 7. 時間微分の計算方法 8. 運動の原因と結果
評価基準	講義内容に基づく筆記試験によって評価する。

E-6-3

講座名	障害の意味を問い直す—障害の重い子どもとの関わり合いを通して—
担当講師	柴田 保之
講座概要	<p>インクルーシブ社会という一つの理想を、私たちの社会は選択しました。しかし、現実の社会では、その理想とは大きくかけ離れた事実が進行しています。たとえば、新しい出生前診断を通して進む命の選別、津久井やまゆり園の悲惨な事件の被告の言葉に動揺させられたままの社会。それらは、象徴的なできごとですが、日々の生活の中には、様々な差別が今だに存在しています。障害が持っている意味とはいったい何なのか、たった一つの正解が存在するような問いではなく、様々な事実と向かい合う中から一つずつその時々々の答えを探していかなければならない問いですが、教育の世界に身を置く以上、この問いから目をそらすわけにはいかないでしょう。この講座では、障害の重い子どもたちや大人との関わり合いの場から見えてくるその問いへの手がかりをできるだけ具体的に、紹介していきたいと思えます。</p>
評価基準	講義を通して考えたことを論述していただく。